

R4年度 学校自己評価のまとめ

学校ランドデザインを基にした家庭・生徒・職員・外部アンケートより

〈アンケート総数〉 全 431 件

アンケート提出数・率

【保護者/家庭数】	【職員】	【児童生徒】	【外部】
小学部 28 家庭 70%	小学部 31 人 100%	小学部 3 人	教育行政 3 人
中学部 30 家庭 75%	中学部 23 人 88%	中学部 26 人	小学校 28 人
高等部 64 家庭 69%	高等部 41 人 95%	高等部 77 人	中学校 8 人
つくしG 8 家庭 62%	つくし 13 人 81%	全校 106 人	全体 39 人
全校 130 家庭 59%	分教室 12 人 80%		
	寄宿舎 22 人 100%		
	支援室 9 人 82%		
	事務室 5 人 100%		
	全校 156 人 92%		

伊那養護学校

〈総合評価〉

・今年度の学校自己評価アンケートからは、ご家庭と学校、保護者のみなさんと担任、保護者のみなさん同士、学校の職員同士、分教室とのつながり、副学籍校とのつながり、地域とのつながりなど、これまで伊那養護学校が大切に紡いできた様々なつながりが3年間のコロナ禍により、少なからず影響を受けていることがうかがわれます。ご家庭からのアンケートの記述にも「コロナのせいで行事が無くなったり、参観日が無くなったりして学校の様子がわかりづらくなった」や「コロナのために学校へ行く機会が減り、子どもの学校での様子が見られない」などのご意見をいただきました。コロナ禍により、ご家庭と学校との連携や信頼関係が揺らいでしまうことは、ある意味コロナと同等の危機であります。現状、コロナの感染者数は減少傾向にあり、また来年度の5月8日には新型コロナウイルス感染症の2類から5類への変更が決定されました。この3年間、「コロナに負けない」を合言葉に、創意と工夫、そして時には我慢をしながらみなさんと力を合わせてきました。これまで大切に積み重ねてきた様々な機関との関係性はコロナ以前と比べてやや希薄になってしまっています。アフターコロナをみすえて、再び「つながり」を強くする努力を改めて始めたいと思います。

I 学校教育目標「自分から自分で精いっぱいそしていっしょに」

5: 思う 4: 少し思う 3: どちらでもない 2: あまり思わない 1: 全く思わない

アンケート質問事項		前 年 化	評 価 平 均	5	4	3	2	1
学校 教育 目 標	家庭 お子さんは 学校へ行くのを楽しみにしている(自分から、自分で)	▼	4.5	90	22	13	4	1
		R3	4.7	116	16	16	2	1
	家庭 お子さんは 学ぶ場として 伊那養で精いっぱい取り組んでいる(精いっぱい)	△	4.6	99	20	6	4	1
		R3	4.5	112	20	7	2	0
	家庭 お子さんは学校でみんなとかかわりながら学習や活動を楽しんでいる(いっしょに)	△	4.6	92	24	11	2	1
		R3	4.5	112	25	12	2	0
	生徒 学校は楽しい	▼	4.3	60	17	13	4	4
		R3	4.6	77	14	9	3	2
	生徒 伊那養に入学してよかったと思っている	▽	4.5	68	16	11	3	0
		R3	4.6	75	14	14	2	0
生徒 伊那養に友だちがいる		4.6	71	16	8	2	1	
	R3	4.6	81	13	8	1	2	
職員 担任している児童生徒は 『自分から、自分で、精いっぱいそしていっしょに』の学校生活を送ることができている		4.3	63	75	15	1	0	
	R3	4.3	77	71	16	2	0	
職員 学校グランドデザインの重点目標や具体的取り組みは 児童生徒の願いや学びを支えるものとなっている	△	4.4	67	76	9	1	0	
	R3	4.3	70	79	15	2	0	
外部 子どもたちは、伊那養へ通うことを楽しみにしている	▽	4.8	30	1	3	0	0	
	R3	4.9	52	1	0	0	0	
外部 学校教育目標「自分から自分で精いっぱいそしていっしょに」は、伊那養にあっている	△	4.8	36	2	3	0	0	
	R3	4.7	54	9	0	0	0	
評価の 受けとめ と今後の 方針	<p>・【総合的に高い評価】学校教育目標「自分から 自分で 精いっぱい そしていっしょに」に対して、家庭、生徒、職員、外部のすべての方々から4.0以上という高い評価をいただきました。今年度は特に、(精いっぱい)、(いっしょに)など4つの項目で高い評価をいただきました。</p> <p>・一方で、家庭からの「お子さんは 学校へ行くのを楽しみにしている(自分から、自分で)」で0.2ポイント、同様に生徒の「学校は楽しい」で0.3ポイント下がりました。コロナ禍の生活も3年目となり、感染症対策を行いながらの生活が長く続くことが、子どもたちに大きな影響を与えていると推測します。子どもたちの安心・安全を第一に、新型コロナウイルス感染症対策のガイドラインの見直しを進め、感染状況を見ながら子どもたちの学びをコロナ以前の学びに近づけていきたいと思えます。</p> <p>・生徒の「学校は楽しい」の設問に対して、2:あまり思わない、1:全く思わないを選択している子どもが昨年度よりも増加していることから、引き続き一人一人の子どもたちの姿を丁寧にとらえ、すべての子どもたちが「今日に満足し明日を楽しみに待つ」学校生活が送れるように考えていきます。</p>							

Ⅱ 学校のベース「人権・連携・安全・安心・防災」

5: そう思う 4: 少し思う 3: どちらでもない 2: あまり思わない 1: 全く思わない

アンケート質問事項		前 変 年 化	評 価 平 均	5	4	3	2	1
人権・いじめ	家庭 人権に配慮した支援がなされている		4.7	101	19	8	1	1
		R3	4.7	111	31	8	1	0
	生徒 困ったときに相談できる人(親・友だち・先生)がいる	▽	4.5	70	12	12	3	1
		R3	4.6	78	13	11	2	1
	職員 児童生徒に対する支援や対応は人権に配慮したものとなっている		4.2	69	66	12	7	1
		R3	4.2	69	75	14	8	0
	家庭 いじめや体罰がない学校環境となっている	▼	4.6	99	17	13	1	0
	R3	4.8	123	20	7	1	0	
生徒 伊那養には体罰やいじめはないと思う	▼	4.3	63	14	13	5	3	
	R3	4.5	75	11	14	3	2	
職員 児童生徒は、いじめや体罰のない学校であると感じている		4.4	84	51	15	3	1	
	R3	4.4	95	51	17	3	0	
チーム・連携	家庭 学校・部・学級の職員が連携して、子どもの支援に取り組んでいる		4.6	89	33	4	2	2
		R3	4.6	93	46	11	0	1
	職員 伊那養は同僚とチームになって、指導・支援に向かっている	△	3.9	45	66	25	14	4
	R3	3.8	41	76	31	11	7	
職員 伊那養は、非違行為のない、同僚性のある職員集団となっている	△	4.2	71	56	21	3	3	
	R3	4.1	63	74	19	6	4	
信頼関係	家庭 担任とは、十分に連携でき、安心感・信頼感がある		4.6	91	27	8	2	2
		R3	4.6	106	31	10	3	1
	家庭 学校は、家庭の思いに寄り添い、誠意を持って応えている	▼	4.5	87	30	8	3	2
	R3	4.7	111	29	9	1	1	
職員 保護者とは十分に連携できている(信頼関係が築けていると感じる)	▼	4.1	50	81	20	2	1	
	R3	4.3	66	85	12	3	0	
安全・安心・防災	家庭 学校の施設・設備や遊具は安全で使いやすいものになっている	△	4.1	54	45	25	6	0
		R3	4.0	61	45	35	10	0
	職員 学校の施設・設備や遊具は安全で使いやすいものになっている	△	3.2	18	46	44	37	9
		R3	3.1	11	54	49	47	5
	家庭 学校は、保護者や地域と連携して防災に取り組んでいる		4.4	74	37	16	3	0
		R3	4.4	85	48	16	2	0
職員 * 校内安全体制の確立 ・防災教育(避難訓練・引渡訓練等を含む) ・施設設備管理、防災体制 ・支援の引継ぎ(担任間・部間等) ・緊急時対応(アレルギー、摂食、医ケア等) ～学校GD:Ⅲ「学校生活づくりの充実」(2)安心安全な学校づくり～	▼	4.0	42	83	20	9	0	
	R3	4.2	56	87	17	5	1	
職員 * 災害時応援協定をもとに ・防災備蓄品、福祉避難所のあり方研究 ～学校GD:Ⅳ「地域と連携した学校生活づくり」(3)地域と連携した防災の取組より～		3.6	24	56	64	10	0	
	R3	3.6	21	71	58	15	1	
評価の受けとめと今後の方針	<p>・【総合的には高い評価もいくつかの課題】</p> <p>【人権・いじめ】家庭、生徒、職員ともに4.0を超える高い評価をいただきました。高い評価をいただいておりますが、家庭の「いじめや体罰がない学校環境となっている」と生徒の「いじめや体罰がない学校環境となっている」の両項目が共に0.2ポイント下がっています。引き続き体罰やいじめのない、子どもたちが安心できる学校づくりを進めます。具体的には生徒のアンケートを活用し、気になる評価をしている生徒一人一人から丁寧な聞き取りを行いました。対応が必要なお子さんに対して必要な支援をすすめています。</p> <p>・【人権・いじめ】昨年度の学校自己評価アンケートの記述に職員の人権意識に対する課題(適切な児童生徒の呼称(呼び捨て、あだ名、～ちゃん付等や適切な関わり(適切な距離感、教師の言動)など)が提起されました。そこで今年度は、職員の人権意識を再度確認するために講演会や研修会を実施してきました。今年度の職員の人権意識についての自己評価は昨年度と同じ評価でした。引き続き、人権意識の涵養につとめ、子どもたちの人権に配慮した支援のできる学校づくりをすすめていきます。</p> <p>・【職員のチーム・連携】昨年度の学校自己評価アンケートで、職員のチーム・連携について課題が提起されました。これは長く続くコロナ禍の影響で、業務以外の職員間のコミュニケーションが減少していることが関係していると考え、今年度は職員の日常的なコミュニケーションが増えることをねがって「雑談・相談プロジェクト」(雑談の話題づくり、いなようTシャツ作成、自己紹介カードの活用など)を実施しました。今年度のアンケート結果は昨年度と変わりませんでしたが、「伊那養は同僚とチームになって、指導・支援に向かっている」、「伊那養は、非違行為のない、同僚性のある職員集団となっている」について学校自己評価アンケートの回答に、2 あまり思わない、1 全く思わないと回答している職員が昨年度とほぼ同じくらいの割合でいることを受け止めて対策を考えていきたいと思っております。</p>							

Ⅲ 学校像1:様々な人といっしょに力を発揮し育つ学校

「学校生活づくりの充実」

(1)学習指導要領に基づいた学校生活づくり

(2)安心安全な学校づくり ※一部をⅡ学校ベース「安心・安全」項目へ

5:そう思う 4:少し思う 3:どちらでもない 2:あまり思わない 1:全く思わない

アンケート質問事項		前 変 年 化	評 価 平 均	5	4	3	2	1
個別 指 導 計 画	家庭	▽	4.6	92	28	8	2	0
		R3	4.7	106	33	11	1	0
	家庭	▽	4.6	92	31	6	0	1
		R3	4.7	106	40	5	0	0
	職員	△	4.0	36	83	29	6	0
		R3	3.9	41	85	30	9	0
学 習 内 容	家庭	▽	4.5	82	35	10	2	1
		R3	4.6	96	42	13	0	0
	家庭	▽	4.6	92	25	11	2	0
		R3	4.7	111	30	9	1	0
	生徒		4.6	67	20	10	1	0
		R3	4.5	71	20	11	3	0
	職員		4.1	46	79	21	8	0
		R3	4.1	51	89	21	3	2
学 習 計 画	家庭	△	4.4	76	36	15	2	1
		R3	4.3	83	44	21	3	0
	家庭		4.4	68	47	12	1	2
		R3	4.4	85	46	16	4	0
	外部	△	4.8	32	2	2	0	0
		R3	4.7	48	10	5	0	0
	職員	△	3.8	28	81	36	8	1
		R3	3.7	24	88	40	14	0
子 ど も 理 解 ・ 研 修	家庭	△	4.7	98	21	8	2	1
		R3	4.6	108	33	9	1	0
	生徒	△	4.5	69	19	3	3	4
		R3	4.4	71	14	12	3	5
	外部	△	4.8	35	1	2	1	0
		R3	4.7	52	7	4	0	0
	家庭	▽	4.2	60	37	29	2	2
		R3	4.4	80	43	25	3	0
	職員	▽	3.8	33	70	39	11	1
		R3	3.9	39	86	35	4	2
評 価 の 受 け と め と 今 後 の 方 針	<p>・【総合的に高い評価】</p> <p>・【個別の指導計画】【学習内容】の両項目共にすべて4.0を超える高い評価をいただきました。今年度は個別の指導計画を県の統一版へ移行している最中ですが、形式の変更について引き続き丁寧に説明を行い、保護者の皆様にご理解をいただけるようにしていきたいと思っております。職員の評価項目である「個別の指導計画を元にした指導と評価～学校GDより～」の評価が上昇しており、職員も統一版に移行することで「何のために学ぶのか」や「何が身についたのか」が整理され、困難な移行作業を経て少しずつ手ごたえを感じていると思われまます。</p> <p>【学習計画の評価も上昇】個別の指導計画の県統一版への移行、シラバスの作成により、学習計画についても整理され、高い評価につながっていると思われまます。</p> <p>【外部の方より高い評価】外部評価の「子どもたちは、自分なりの自立や将来につながる力をつけている」は4.8という高い評価をいただきました。同じく外部評価「職員は、子どもたちの障がいや特性を理解し適切な指導や支援ができていいる」も4.8という高い評価をいただきました。本校の教育方針、学習内容、子どもたちへの支援について外部の方にご理解頂き、高い評価をいただいていることを嬉しく思います。これからも学校教育目標「自分から 自分で 精いっぱい そして いっしょに」の具現化に向けて一人一人の子どもたちに合わせた学習や支援ができるように、職員がチームとなって取り組んでいけるようにしたいと思います。</p>							

IV 学校像2:地域といっしょに歩む学校

「地域と連携した生活づくり」

(1) インクルーシブな教育の推進

(2) 地域とのさらなる連携

(3) 地域と連携した防災の取組→Ⅱ「安全・安心・防災」項目へ

5: そう思う 4: 少し思う 3: どちらでもない 2: あまり思わない 1: 全く思わない

アンケート質問事項		前 変 年 化	評 価 平 均	5	4	3	2	1
分 教 室	家庭	分教室は、地域での存在感や同世代の仲間とのつながりを築き、 地域や設置校と連携した教育を行っている	▼ 3.7	30	33	62	3	2
			R3 4.0	38	22	31	5	2
分 教 室	職員	分教室での教育の充実 ～学校GDより～ ・分教室の施設設備(はなもも第2教室など) ・分教室と設置校の連携推進 ・分教室と本校の連携推進(児生交流、職員交流)	▽ 3.5	19	65	50	16	4
			R3 3.6	24	81	43	15	3
副 学 籍 ・ 交 流	家庭	副学籍制度により、 地元校での存在感や仲間とのつながり、交流活動は充実してきている	▼ 3.3	30	20	50	21	9
			R3 3.5	33	27	61	15	6
	家庭	交流校(西箕輪小・西箕輪中・長谷中・上農高)との交流活動は充実している	▼ 3.6	31	30	59	5	5
			R3 3.8	28	42	39	6	2
副 学 籍 ・ 交 流	職員	副学籍制度の充実、地域校との交流 ～学校GDより～ ・交流の充実と啓蒙推進 ・地域での学びの場としてのあり方	3.8	36	62	43	12	1
			R3 3.8	33	78	46	8	1
地 域 連 携	家庭	学校は、支援会議を通して、福祉・医療機関や市町村などと連携し、 家庭の相談やニーズに応え、計画的な支援を行っている	▽ 4.3	70	39	18	1	2
			R3 4.4	84	43	23	0	1
	外部	伊那養は、地域(諸機関や人々)と連携して、子どもたちへの教育や支援ができています	△ 4.8	36	3	1	0	0
			R3 4.7	48	14	2	0	0
	外部	伊那養は、上伊那での特別支援学校のセンター的な役割を果たすことができています	4.8	34	2	2	0	0
			R3 4.8	49	12	0	0	0
地 域 連 携	職員	かみとくれんを中心とした地域資源との連携強化 ～学校GDより～ ・研修会の企画、運営 ・他校や他地域との連携 ・医療や福祉、行政との連携	▽ 3.8	32	72	45	4	1
			R3 3.9	38	77	45	5	1
	職員	学びの場の連続性 ～学校GDより～ ・就学相談、教育相談、支援会議の充実 ・巡回相談の充実(センター的機能)	▽ 3.9	38	67	46	3	0
			R3 4.0	43	93	28	1	1
地 域 資 源	家庭	学校からのお便りやホームページ等で、学校の様子が伝わっている	▽ 4.5	80	40	6	2	2
			R3 4.6	101	41	6	2	1
	家庭	地域のボランティアを教育活動に活用している(伊那養サポーター制度)	4.1	55	39	31	4	1
			R3 4.1	62	46	42	0	1
地 域 資 源	職員	地域資源の活用 ～学校GDより～ ・地域で学ぶ、地域と学ぶ、地域への発信	▼ 3.6	22	69	50	11	2
			R3 3.8	28	82	44	12	0
評 価 の 受 け と め と 今 後 の 方 針	<p>【全体的には高い評価も、コロナの影響を大きく受ける】</p> <p>・(分教室)については、コロナの影響のために本校の原学級との学習(校外学習等)がなかなか実施できませんでした。家庭の評価項目「分教室は、地域での存在感や同世代の仲間とのつながりを築き、地域や設置校と連携した教育を行っている」の評価の内訳をみると、「3 どちらでもない」が昨年度は31人だったのが、今年度は62人と倍増しています。これは、コロナ禍の影響を強く受け、分教室の様子が以前より「見えづらい」、「わかりづらい」状況になっていると推測します。</p> <p>・(副学籍・交流)についても、年度途中よりコロナの感染状況を見ながら、ガイドラインの見直しを行い、活動内容や個別の交流のニーズを検討しながら原則、実施できるようにしてきました。アフターコロナを見据えて、地域とのつながり分教室とのつながり、副学籍校とのつながりを、改めて意識して活動内容やあり方を考えていきたいと思えます。</p>							